

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2023年10月29日（日）

主 題：「明日に向かって生きる人生」

テキスト：マルコ福音書14章3－9節

### はじめに

・おはよう ございます。

・世のなかには、さまざまな問題がありますね。

1年半以上続くウクライナ戦争は、今や泥沼状態となり、解決の出口が見えない状態です。実に多数の方々が、ウクライナ、ロシアで被害を受けています。そして犠牲者も出ています。私たちは速やかな終息を祈っています。

・また先日は、イスラム教過激派組織「ハマス」が、イスラエルの「仮庵の祭り」の安息日に、急遽数千発ものミサイルでイスラエル本土を攻撃しました。イスラエルはそれに応戦し、恐ろしい戦争が始まりました。さらにレバノンのイスラム教過激派組織「ヒスボラ」も動き始め、こちらも泥沼化しています。

・宗教、思想の違いはありますが、一番被害を受けているのは両国の一般市民です。病院、警察、学校までも被害を受け大変心を痛めています。一時も早く戦争が終息しますよう、切に祈り願うものです。

・世界にはさまざまな問題があります。それらの問題の原因はいろいろありますが、そのひとつは価値観の相違にあります。人の基準、評価、価値観はみな違います。戦争はそれが大きく現れた状態でしょう。戦争のような争いにまで行かなくても、私たちの周りには価値観の相違があります。

・聖書にも、そのような価値観の違いが出てきます。それが今日のテキストです。聖書テキストを開いてください。

・ある時、イエスはベタニア村でシモンの家を訪ね、食事をしていました。

そこに、一人の女性が現れました。聖書は次のように記しています。

#### マルコ14章

14:3 さて、イエスがベタニアで、ツアラアトに冒された人シモンの家におられたときのことである。食事をしておられると、ある女の人が、純粋で非常に高価なナルド油の入った小さな壺を持って来て、その壺を割り、イエスの頭に注いだ。

14:4 すると、何人かの者が憤慨して互いに言った。「何のために、香油をこんな

に無駄にしたのか。

14:5 この香油なら、三百デナリ以上に売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」そして、彼女を厳しく責めた。

14:6 すると、イエスは言われた。「彼女を、するまますせておきなさい。なぜ困らせるのですか。わたしのために、良いことをしてくれたのです。

- ・イエスは女性の行動を評価しましたが、そこにいた人たちは憤慨しました。なんと、「もったいなこと」と言い、女性を厳しく責めました。ここに大きな価値観の違いを見ます。
- ・しかし価値観の相違を超えて、そこにいた皆が経験したことがあります。それは、何であったでしょうか。⇒ ナルド香油が放った香り！  
「香り」はその部屋全体にただよいました。イエスはその女性を高く評価されました。そしてこう言われました。

14:6 すると、イエスは言われた。「彼女を、するまますせておきなさい。なぜ困らせるのですか。わたしのために、良いことをしてくれたのです。

- ・今日は、価値観の違いよりも、「香り」が放たれた背景を考えたいと思います。 2点

### 大切なポイント

#### 1. 彼女は最高のものをささげた

- ・「ナルドの香油」：インド産の高級香油、外国産で輸入品  
高価、女性の嫁入り時に持参する大切な品でした
- ・香油の値打ちは、300デナリ以上でした。1デナリは当時の労働者の日給額でしたから ⇒ 300日分以上です
- ・その高価な「ナルドの香油」のツボを一瞬にして割り、女性はイエスに香油を注ぎました。それは彼女にとって、イエスはそれだけの価値があったからでした。彼女は最高のモノを捧げた行為でした。  
⇒つまり、彼女の視線はイエスに向いていました。  
だからこそ、約2千年経過した今の時代でも語り継がれているのです。
- ・イエスは、「わたしのために、良いことをしてくれたのです。」と言われました。それは良い行為、正しいことでした。
- ・ナルドの香油の香りは、きっと部屋いっぱい広がったことでしょう。そこには、女性の高価なナルド油という大きな犠牲がありました。つまり女性は、イエスは高価な香油を捧げるに相応しいお方と自覚していました。

- ・私たちはイエスをどのように見ているのでしょうか？  
自分の助け手となるイエスでしょうか  
自分の生活を良くしてくださり、祝福してくださるイエスでしょうか。  
自分の家族を守ってくださるイエスでしょうか。
- ・考えてください。それらは全て自分のことばかりです。自分の願望ばかりです。この女性はイエスから受けること（願望）ではなく、与えるという行為をとりました。彼女の行為の背景には、イエスへの大きな愛、感謝の心がありました。
- ・彼女の価値観は世の人がとる価値観とは、全く違っていました。それはイエスの価値を知っていたからでした。イエスは言われました。  
14:8 彼女は、自分にできることをしたのです。埋葬に備えて、わたしのからだに、前もって香油を塗ってくれました。
- ・当時のイスラエルでは、人が亡くなり埋葬する際、香油を塗る習慣がありました。彼女はどこまでそれを察知していたかは不明ですが、イエスの死と埋葬を予知する行為でした。
- ・できることをした彼女は、イエスから高い評価を受けました。  
いかがでしょうか。私たちにとって大切なことは、
  - ① イエスがどんなお方か知ること
  - ② 出来るだけのことをすること
- ・ここに、聖徒たちの生きる姿勢を見ることができます。
- ・世の価値観は、時代と共に変わります。社会の基準となる法律でさえ、変わります。世の中の全ては変わるものです。しかし、ここに永遠に不変のお方、イエスがおられます。イエスは昔もおられ、今もおられ、変わらないお方。すなわち神です。
- ・イエスは十字架でお死にくださり、墓に葬られました。しかし三日目に、復活してくださいました。死に打ち勝った勝利者です。ハレルヤ！
- ・絶対に変わらないお方は、神以外にはいません。  
⇒このお方こそ目を止めるべきお方です。  
私たちの人生において、大切な目標はどこにあるのでしょうか？
- ・では、彼女は、なぜそのような高価な「ナルド油」を捧げたのでしょうか。

## 2. 人生の大切な目標

- ・彼女は「ナルドの香油」のツボを割り、イエスに注ぎました。  
⇒ 彼女はイエスに、それ以上の価値があることを知っていました。

ここに、彼女が人生の価値を置いた基準があります。

- 世の基準から見れば、愚かなことでした。しかしイエスの基準から見れば、高い評価でした。彼女の行為は、他人から強いられたものではありません。彼女の意志から出た行為でした。
- ギリシャ語で「人間」のことを「アンソロポス」(or, anthropos)

これは ⇒「上を見る者」の意味です

すなわち、神を仰ぐ者は人間だけです。人間のみが、生まれながらにして、神を仰ぐという存在です。

- では、そうすれば神を知ることができるでしょうか。  
神は私たちに聖書を与えてくださいました。聖書は神が与えた「神の書」です。その聖書でイエスを知ることができます。そして神は聖書を通し、私たちにお語りくださいます。

『例 話』ウクライナ・ロシア戦争において幸いな証があります。

- 今回の戦争で、ウクライナ軍兵士がロシア軍の捕虜となり、その後両国間の捕虜交換でウクライナに帰還した兵士たちがいます。
- 1人の兵士が次のように証言しました。「私はロシア軍にとらえられ、捕虜収容所に入れられました。毎日、厳しい尋問 と拷問が続いたある日、ロシア人看守がウクライナ語聖書を渡してくれました。
- その看守とは面識は全くなく、誰であったかも覚えていません。私は生まれて初めて聖書を手にし、詩篇を開き読み始めました。すると、みことばが心に深く入り込んできました。収容所では私を導く人は誰もいませんでしたが、私は神の御霊に打たれ、その場で神を信じました。」
- このように、ウクライナ兵が、敵国ロシアの捕虜収容所でクリスチャンとなり、祖国へ帰還しました。それは神の不思議な摂理でした。一人の看守が手渡した一冊の聖書が、兵士の人生を変えました。無言の行いが、一人の魂が救われました。 ⇒聖書にはそれだけの力があります。
- ましてや、聖書を与えてくださった神は、大いなる力を持っておられます。

- 私たちは、どこに人生の価値をおいているか？

いったい誰の前に生きているか？ ⇒創造神の前で生きるべきではありませんか。

## ま と め

主 題：「明日に向かって生きる人生」

- 一人の女性がイエスにささげた「ナルドの香油」は、すばらしい「香り」を

放った。その香りは、部屋にいたすべての人が体験した。

・「ナルドの香り」が放たれた背景は・・・・・・？

⇒ 彼女の行為にありました。

1. 彼女はイエスを愛した
2. 彼女は人生のまことの価値を知っていた

\* God bless you!